

* 課題番号	総 08-001
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 20 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22 年 4 月 1 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 甲斐素直



所属・資格 法学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。										
2	研究課題 人格権および財産権の保護に関する総合的研究												
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）												
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表者 甲斐素直（研究全体の総括並びに公法部門総括及び研究） ・ 研究分担者（役割分担） <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">松島雪江（役割分担 法哲学部門の総括及び研究）</td> <td style="width: 50%;">川又伸彦（役割分担 公法部門研究）</td> </tr> <tr> <td>高畑英一郎（役割分担 公法部門研究）</td> <td>設楽裕文（役割分担 刑事法部門の総括及び研究）</td> </tr> <tr> <td>関 正晴（役割分担 刑事法部門研究）</td> <td>岡西賢治（役割分担 刑事法部門研究）</td> </tr> <tr> <td>永田誠（役割分担 民事法部門の統括及び研究）</td> <td>山田卓生（役割分担 民事法部門研究）</td> </tr> <tr> <td>小田司（役割分担 民事法部門研究）</td> <td>益井公司（役割分担 民事法部門研究）</td> </tr> </table>			松島雪江（役割分担 法哲学部門の総括及び研究）	川又伸彦（役割分担 公法部門研究）	高畑英一郎（役割分担 公法部門研究）	設楽裕文（役割分担 刑事法部門の総括及び研究）	関 正晴（役割分担 刑事法部門研究）	岡西賢治（役割分担 刑事法部門研究）	永田誠（役割分担 民事法部門の統括及び研究）	山田卓生（役割分担 民事法部門研究）	小田司（役割分担 民事法部門研究）	益井公司（役割分担 民事法部門研究）
松島雪江（役割分担 法哲学部門の総括及び研究）	川又伸彦（役割分担 公法部門研究）												
高畑英一郎（役割分担 公法部門研究）	設楽裕文（役割分担 刑事法部門の総括及び研究）												
関 正晴（役割分担 刑事法部門研究）	岡西賢治（役割分担 刑事法部門研究）												
永田誠（役割分担 民事法部門の統括及び研究）	山田卓生（役割分担 民事法部門研究）												
小田司（役割分担 民事法部門研究）	益井公司（役割分担 民事法部門研究）												
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）												
	発表者名	学会名	発表テーマ										
	甲斐素直	2. Rechtswissenschaftliches Symposium des College of Law der Nihon Universität Tokyo und des Fachbereichs Rechtswissenschaft der Freien Universität Berlin	Die Besonderheiten des Begriffs des Vermögensrechts in Japan										
	松嶋雪江		Japanisches Rechtsbewusstsein bezug- lich Persönlichkeit und Eigentum										
	川又伸彦		Personlichkeitsrecht und Verfahren										
	高畑英一郎		Das Recht auf religiöse Selbst- bestimmung in Japan										
	設楽裕文		Beschuldigungsvernehmung und Gestandnis in Japan										
	関 正晴		Beweisverbot und Gestandnisregel										
	岡西賢治		Strafrechtlicher Schutz des Persönlichkeitsrechts										
	永田 誠		Eigentum als absolutes Recht										
	山田卓生		Privatheit im Deliktsrecht										
	小田 司		Persönlichkeitsschutz durch Beweisgewinnungs- und Beweisverwertungs-verbote										
	益井公司	Zur japanischen Sicherungsbereignung - unter besonderer Berücksichtigung ihrer rechtlichen Konstruktion											
			発表年月										
			2008 年 9 月 2 日～ 4 日										

5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
松嶋雪江, 甲斐素直, 川又伸彦, 高畑英一郎, 岡西賢治, 関 正晴, 設楽裕文, 益井公司, 永田 誠, 山田卓生, 小田 司, Markus Heintzen	Japanisches Rechtsbewusstsein bezüglich Persönlichkeitsschutz und Eigentum (松嶋), Die Besonderheiten des Begriffs des Vermögensrechts in Japan (甲斐), Persönlichkeitsrecht und Verfahren (川又), Das Recht auf religiöse Selbstbestimmung in Japan (高畑), Strafrechtlicher Schutz des Persönlichkeitsrechts (岡西), Beweisverbot und Geständnisregel (関), Beschuldigtervernehmung und Geständnis in Japan (設楽), Zur japanischen Sicherungsübereignung - unter besonderer Berücksichtigung ihrer rechtlichen Konstruktion (益井), Eigentum als absolutes Recht (永田), Privatheit im Deliktsrecht (山田), Persönlichkeitsschutz durch Beweisgewinnungs- und Beweisverwertungsverbote (小田)	—	2009年5月	Carl Heymanns Verlag

※ホームページ等での公開の (・ 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

[成果物 8 - 2]

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
2009年度にドイツ側の共同研究者の一人、ハインツェン教授を日本に招待し、講演を行っていただくと同時に、共同研究を継続的に実施した。			
2010年度には、同じくドイツ側の共同研究者の一人、ホフマン=ホランド教授を日本に招待する予定である。			
(その他)			
現在までのところ、ドイツ語版の成果物のみが存在しているが、日本語版も 2010年度中には刊行する予定である。			

* 課題番号	総 08-003 継続 総 07-001
--------	----------------------------

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成22年4月1日

日本大学 総長 殿

氏 名 飯 田 隆



所属・資格 文理学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																									
2 研究課題	酵素機能をもつ新規金属ポルフィリン錯体触媒の創製と未利用有機天然資源への高度利用																																										
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 飯田 隆 研究分担者 (役割分担) 若槻 康雄・爲我井秀行・柿山 玄太 (新規金属ポルフィリン錯体触媒/ 酸素ドナー系酸化剤の分子設計と創製) 藤本 康雄・秋久 俊博 (未利用有機天然資源の遠隔含酸素官能基化生成物の単離と構造決定) 鈴鹿 敢・齋藤 義雄 (各種スペクトル法を用いる金属ポルフィリン触媒の微細構造と反応機構の解明) 安川 憲・眞野 成康 (酸化生成物のバイオアッセイと医薬品評価) 																																										
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小方聖太郎、伊藤敏宏、爲我井秀行、小川祥二郎、飯田隆、若槻康雄</td> <td>第90回日本化学会春季年会</td> <td>ピリジン-銀錯体を結合した ROMP ポリマーの合成と抗菌フィルムへの応用</td> <td>2010年3月26-28</td> </tr> <tr> <td>小川祥二郎、飯田隆、眞野成康、後藤順一、Lee R. Hagey, Alan F. Hofmann</td> <td>第31回胆汁酸研究会</td> <td>メダカ (<i>Oryzias latipes</i>) の胆汁成分に関する研究</td> <td>2009年11月7日</td> </tr> <tr> <td>小川祥二郎、飯田隆、牧野三津子、藤本康雄、秋久俊博、安川憲、高忠司、堀一之</td> <td>第129回日本薬学会年会</td> <td>未利用トリテルペンの有効利用を指向した金属ポルフィリン錯体酸素供与体系による生理活性物質の創製と生物活性</td> <td>2009年3月26-28日</td> </tr> <tr> <td>武藤晃奈、柿山玄太、飯田隆、三田村邦子、池川繁男</td> <td>第129回日本薬学会年会</td> <td>ジオキシランによるコレステロール側鎖 C-25 位の遠隔水酸化基化をキラー反応とするオキシステロール類の高効率合成</td> <td>2009年3月26-28日</td> </tr> <tr> <td>柿山玄太、武藤晃奈、飯田隆、眞野成康、後藤順一</td> <td>第129回日本薬学会年会</td> <td>アカハネシギダチョウ (<i>Rynchotus rufescens</i>) から新規高級胆汁酸 (25R)-1β, 3α, 7α-Trihydroxy-5β-cholestan-27-oyl taurine の同定</td> <td>2009年3月26-28日</td> </tr> <tr> <td>高野重永、永沼知里、小川祥二郎、爲我井秀行、飯田隆、若槻康雄</td> <td>第89回日本化学会春季年会</td> <td>抗菌フィルムをめざした機能性モノマーのROM重合</td> <td>2009年3月27-30日</td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	小方聖太郎、伊藤敏宏、爲我井秀行、小川祥二郎、飯田隆、若槻康雄	第90回日本化学会春季年会	ピリジン-銀錯体を結合した ROMP ポリマーの合成と抗菌フィルムへの応用	2010年3月26-28	小川祥二郎、飯田隆、眞野成康、後藤順一、Lee R. Hagey, Alan F. Hofmann	第31回胆汁酸研究会	メダカ (<i>Oryzias latipes</i>) の胆汁成分に関する研究	2009年11月7日	小川祥二郎、飯田隆、牧野三津子、藤本康雄、秋久俊博、安川憲、高忠司、堀一之	第129回日本薬学会年会	未利用トリテルペンの有効利用を指向した金属ポルフィリン錯体酸素供与体系による生理活性物質の創製と生物活性	2009年3月26-28日	武藤晃奈、柿山玄太、飯田隆、三田村邦子、池川繁男	第129回日本薬学会年会	ジオキシランによるコレステロール側鎖 C-25 位の遠隔水酸化基化をキラー反応とするオキシステロール類の高効率合成	2009年3月26-28日	柿山玄太、武藤晃奈、飯田隆、眞野成康、後藤順一	第129回日本薬学会年会	アカハネシギダチョウ (<i>Rynchotus rufescens</i>) から新規高級胆汁酸 (25R)-1 β , 3 α , 7 α -Trihydroxy-5 β -cholestan-27-oyl taurine の同定	2009年3月26-28日	高野重永、永沼知里、小川祥二郎、爲我井秀行、飯田隆、若槻康雄	第89回日本化学会春季年会	抗菌フィルムをめざした機能性モノマーのROM重合	2009年3月27-30日													
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																								
小方聖太郎、伊藤敏宏、爲我井秀行、小川祥二郎、飯田隆、若槻康雄	第90回日本化学会春季年会	ピリジン-銀錯体を結合した ROMP ポリマーの合成と抗菌フィルムへの応用	2010年3月26-28																																								
小川祥二郎、飯田隆、眞野成康、後藤順一、Lee R. Hagey, Alan F. Hofmann	第31回胆汁酸研究会	メダカ (<i>Oryzias latipes</i>) の胆汁成分に関する研究	2009年11月7日																																								
小川祥二郎、飯田隆、牧野三津子、藤本康雄、秋久俊博、安川憲、高忠司、堀一之	第129回日本薬学会年会	未利用トリテルペンの有効利用を指向した金属ポルフィリン錯体酸素供与体系による生理活性物質の創製と生物活性	2009年3月26-28日																																								
武藤晃奈、柿山玄太、飯田隆、三田村邦子、池川繁男	第129回日本薬学会年会	ジオキシランによるコレステロール側鎖 C-25 位の遠隔水酸化基化をキラー反応とするオキシステロール類の高効率合成	2009年3月26-28日																																								
柿山玄太、武藤晃奈、飯田隆、眞野成康、後藤順一	第129回日本薬学会年会	アカハネシギダチョウ (<i>Rynchotus rufescens</i>) から新規高級胆汁酸 (25R)-1 β , 3 α , 7 α -Trihydroxy-5 β -cholestan-27-oyl taurine の同定	2009年3月26-28日																																								
高野重永、永沼知里、小川祥二郎、爲我井秀行、飯田隆、若槻康雄	第89回日本化学会春季年会	抗菌フィルムをめざした機能性モノマーのROM重合	2009年3月27-30日																																								
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S. Ogawa, Y. Wakatsuki, M. Makino, Y. Fujimoto, K. Yasukawa, T. Kikuchi, M. Ukiya, T. Akihisa, T. Iida</td> <td>Oxygenation of Unactivated C-H Bonds in Triterpenoids with <i>tert</i>-Butylhydroperoxide Catalyzed by <i>meso</i>-5,10,15,20-Tetramesityl porphyrinate Osmium(II) Carbonyl Complex/ <i>Chem. Phys. Lipids</i></td> <td>163巻2号</td> <td>2010年2月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>K. Yasukawa, T. Iida, Y. Fujimoto</td> <td>Relative inhibitory activity of bile acids against 12-O-tetradecanoylphorbol-13-acetate-induced inflammation, and chenodeoxycholic acid inhibition of tumour promotion in mouse skin two-stage carcinogenesis/ <i>J. Pharm. Pharmacol.</i></td> <td>61巻8号</td> <td>2009年8月</td> <td>Pharmaceutical Press</td> </tr> <tr> <td>G. Kakiyama, A. Muto, M. Shimada, N. Mano, J. Goto, A.F. Hofmann, and T. Iida</td> <td>Chemical Synthesis 3β-Sulfoxy-7β-hydroxy-24-nor-5-choleonic Acid: An Internal Standard for Mass Spectrometric Analysis of the Abnormal delta-5-Bile Acids in Niemann-Pick Disease/ <i>Steroids</i></td> <td>74巻9号</td> <td>2009年9月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>L.R. Hagey, G. Kakiyama, A. Muto, T. Iida, K. Mushake, T. Goto, N. Mano, J. Goto, C.A. Oliveira, A.F. Hofmann</td> <td>A new, major C₂₇ biliary bile acid in the Red-winged tinamou (<i>Rynchotus rufescens</i>): (25R)-1β, 3α, 7α-trihydroxy-5β-cholestan-27-oyic acid/ <i>J. Lipid Res.</i></td> <td>50巻4号</td> <td>2009年4月</td> <td>米国分子生物学会</td> </tr> <tr> <td>S. Ogawa, G. Kakiyama, A. Muto, A. Hosoda, K. Mitamura, S. Ikegawa, A.F. Hofmann, and T. Iida</td> <td>A Facile Synthesis of C-24 and C-25 Oxysterols by in situ Generated Ethyl(trifluoromethyl)dioxirane/ <i>Steroids</i></td> <td>74巻1号</td> <td>2009年1月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>Y. Numata, S. Toyoshima, K. Okuyama, M. Yasunami and I. Suzuka</td> <td>S₁-State Internal Conversion of Isolated Azulene Derivatives/ <i>J. Phys. Chem.</i></td> <td>113巻35号</td> <td>2009年9月</td> <td>ACS Publications</td> </tr> <tr> <td>K. Matsumoto, Y. Shinohara, S.S. Bag, Y. Takeuchi, T. Morii, Y. Saito, and I. Saito</td> <td>Pyrene-labeled deoxyguanosine as a fluorescence sensor to discriminate single and double stranded DNA structures: Design of ends free molecular beacons/ <i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i></td> <td>19巻22号</td> <td>2009年11月</td> <td>Elsevier</td> </tr> </tbody> </table>			著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	S. Ogawa, Y. Wakatsuki, M. Makino, Y. Fujimoto, K. Yasukawa, T. Kikuchi, M. Ukiya, T. Akihisa, T. Iida	Oxygenation of Unactivated C-H Bonds in Triterpenoids with <i>tert</i> -Butylhydroperoxide Catalyzed by <i>meso</i> -5,10,15,20-Tetramesityl porphyrinate Osmium(II) Carbonyl Complex/ <i>Chem. Phys. Lipids</i>	163巻2号	2010年2月	Elsevier	K. Yasukawa, T. Iida, Y. Fujimoto	Relative inhibitory activity of bile acids against 12-O-tetradecanoylphorbol-13-acetate-induced inflammation, and chenodeoxycholic acid inhibition of tumour promotion in mouse skin two-stage carcinogenesis/ <i>J. Pharm. Pharmacol.</i>	61巻8号	2009年8月	Pharmaceutical Press	G. Kakiyama, A. Muto, M. Shimada, N. Mano, J. Goto, A.F. Hofmann, and T. Iida	Chemical Synthesis 3 β -Sulfoxy-7 β -hydroxy-24-nor-5-choleonic Acid: An Internal Standard for Mass Spectrometric Analysis of the Abnormal delta-5-Bile Acids in Niemann-Pick Disease/ <i>Steroids</i>	74巻9号	2009年9月	Elsevier	L.R. Hagey, G. Kakiyama, A. Muto, T. Iida, K. Mushake, T. Goto, N. Mano, J. Goto, C.A. Oliveira, A.F. Hofmann	A new, major C ₂₇ biliary bile acid in the Red-winged tinamou (<i>Rynchotus rufescens</i>): (25R)-1 β , 3 α , 7 α -trihydroxy-5 β -cholestan-27-oyic acid/ <i>J. Lipid Res.</i>	50巻4号	2009年4月	米国分子生物学会	S. Ogawa, G. Kakiyama, A. Muto, A. Hosoda, K. Mitamura, S. Ikegawa, A.F. Hofmann, and T. Iida	A Facile Synthesis of C-24 and C-25 Oxysterols by in situ Generated Ethyl(trifluoromethyl)dioxirane/ <i>Steroids</i>	74巻1号	2009年1月	Elsevier	Y. Numata, S. Toyoshima, K. Okuyama, M. Yasunami and I. Suzuka	S ₁ -State Internal Conversion of Isolated Azulene Derivatives/ <i>J. Phys. Chem.</i>	113巻35号	2009年9月	ACS Publications	K. Matsumoto, Y. Shinohara, S.S. Bag, Y. Takeuchi, T. Morii, Y. Saito, and I. Saito	Pyrene-labeled deoxyguanosine as a fluorescence sensor to discriminate single and double stranded DNA structures: Design of ends free molecular beacons/ <i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i>	19巻22号	2009年11月	Elsevier
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																							
S. Ogawa, Y. Wakatsuki, M. Makino, Y. Fujimoto, K. Yasukawa, T. Kikuchi, M. Ukiya, T. Akihisa, T. Iida	Oxygenation of Unactivated C-H Bonds in Triterpenoids with <i>tert</i> -Butylhydroperoxide Catalyzed by <i>meso</i> -5,10,15,20-Tetramesityl porphyrinate Osmium(II) Carbonyl Complex/ <i>Chem. Phys. Lipids</i>	163巻2号	2010年2月	Elsevier																																							
K. Yasukawa, T. Iida, Y. Fujimoto	Relative inhibitory activity of bile acids against 12-O-tetradecanoylphorbol-13-acetate-induced inflammation, and chenodeoxycholic acid inhibition of tumour promotion in mouse skin two-stage carcinogenesis/ <i>J. Pharm. Pharmacol.</i>	61巻8号	2009年8月	Pharmaceutical Press																																							
G. Kakiyama, A. Muto, M. Shimada, N. Mano, J. Goto, A.F. Hofmann, and T. Iida	Chemical Synthesis 3 β -Sulfoxy-7 β -hydroxy-24-nor-5-choleonic Acid: An Internal Standard for Mass Spectrometric Analysis of the Abnormal delta-5-Bile Acids in Niemann-Pick Disease/ <i>Steroids</i>	74巻9号	2009年9月	Elsevier																																							
L.R. Hagey, G. Kakiyama, A. Muto, T. Iida, K. Mushake, T. Goto, N. Mano, J. Goto, C.A. Oliveira, A.F. Hofmann	A new, major C ₂₇ biliary bile acid in the Red-winged tinamou (<i>Rynchotus rufescens</i>): (25R)-1 β , 3 α , 7 α -trihydroxy-5 β -cholestan-27-oyic acid/ <i>J. Lipid Res.</i>	50巻4号	2009年4月	米国分子生物学会																																							
S. Ogawa, G. Kakiyama, A. Muto, A. Hosoda, K. Mitamura, S. Ikegawa, A.F. Hofmann, and T. Iida	A Facile Synthesis of C-24 and C-25 Oxysterols by in situ Generated Ethyl(trifluoromethyl)dioxirane/ <i>Steroids</i>	74巻1号	2009年1月	Elsevier																																							
Y. Numata, S. Toyoshima, K. Okuyama, M. Yasunami and I. Suzuka	S ₁ -State Internal Conversion of Isolated Azulene Derivatives/ <i>J. Phys. Chem.</i>	113巻35号	2009年9月	ACS Publications																																							
K. Matsumoto, Y. Shinohara, S.S. Bag, Y. Takeuchi, T. Morii, Y. Saito, and I. Saito	Pyrene-labeled deoxyguanosine as a fluorescence sensor to discriminate single and double stranded DNA structures: Design of ends free molecular beacons/ <i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i>	19巻22号	2009年11月	Elsevier																																							

※ホームページ等での公開の (◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
<p>科学研究費補助金 基盤研究 (C) 平成 21-23 年度 “先天性胆汁酸代謝異常症における疾患マーカーの特定, 同定と病態解析” (研究代表者) (研究経費 485 万円)</p> <p>先天性胆汁酸代謝異常症に特異的に出現し、その疾病マーカーとなることが期待される一連のステロイド異常代謝産物を化学合成し、合成標品と実検体尿 (順伸クリニック胆汁酸研究所から供与) を用いて、当該化合物の高感度・高選択的な直接 LC/MS によるルーチン、プロフィール分析法の開発を進めている。</p>			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	総 08-004
	継続
	総 07-002

平成 20 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 大塚友美



所属・資格 文理学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 多民族地域における社会経済開発と民族共生に関する研究		
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・研究代表者 大塚友美 (研究の総括、多民族地域の経済発展と人口変動) ・研究分担者 (役割分担) 青木一能 (国際関係における少数民族問題) 水嶋一雄 (地理環境の分析と農業) 葭田光三 (少数民族の生態と文化) 守屋政平 (情報化の進展の社会的影響) 信夫隆司 (多民族地域と環境問題) 林 幸博 (乾燥地帯農業の生産方式) 辻 忠博 (多民族地区の経済開発) 段 瑞聡 (社会体制と民族自治政策) 日吉秀松 (旧氏名: 劉松) (多民族宥和政策の分析) 六辻彰二 (少数民族問題の比較研究)		
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)		
	発表者名	学会名	発表テーマ
	大塚友美	日本人口学会 (第 61 回大会)	中国における社会経済開発と少数民族問題
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号
	大塚友美、葭田光三、水嶋一雄、林幸博、辻忠博、守屋政平	日本大学文理学部人文科学研究so『研究紀要』、「社会経済開発と民族共生」	第 79 号
	青木一能、日吉秀松、六辻彰二、信夫隆司、段瑞聡	日本大学文理学部人文科学研究so『研究紀要』、「多民族地域における社会経済開発と民族共生」	第 79 号
	葭田光三、辻忠博、大塚友美、林幸博、水嶋一雄、守屋政平、青木一能、六辻彰二、日吉秀松	『多民族地域における社会経済開発と民族共生に関する研究(日本大学学術研究助成金共同研究報告)』	

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
<p>新疆ウイグル自治区経済の計量経済モデルを構築する過程において、簡易人口経済計量モデルを構築する着想を得る (下記1)。この着想を発展させて、簡易人口経済計量モデルの国際労働移動分析への応用を試み、興味深い知見を得た (下記2)。この研究をさらに発展させた研究の成果は、2010年の日本人口学会において発表する予定である (下記3)。</p>			
<p>1. 大塚友美「簡易人口経済モデルのための簡易経済モデルの構築について」日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』第78号 (2009年9月)。</p>			
<p>2. 大塚友美「簡易人口経済計量モデルによる国際労働移動分析 (日本の事例)」日本大学文理学部人文科学研究所『研究紀要』第78号 (2010年3月)。</p>			
<p>3. 日本人口学会第62回大会 (2010年6月11日(金)、12日(土)、13日(日)、於：お茶の水女子大学)</p>			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成22年4月12日

日本大学 総長 殿

氏 名 乾 友彦



所属・資格 経済学部 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	アジアにおける経済のグローバル化と経済成長			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 乾 友彦 ・研究分担者 (役割分担) 井尻直彦 (波及効果分析)、権赫旭 (日本経済分析)、宮里尚三 (日本経済分析)、村上直樹 (ソフトウェア産業分析)、瀧田治雄 (ソフトウェア産業分析)、木村政司 (ソフトウェア産業分析)、深尾京司 (日本経済分析)、戸堂康之 (波及効果分析)、松浦寿幸 (波及効果分析)、David Greenaway (波及効果分析)、Richard Kneller (波及効果分析)、Jungsoo Park (波及効果分析)、Alexander Hijzen (波及効果分析)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
乾 友彦	Western Economic Association	Globalization and Plant Exit-Evidence from Japan-	2009年6月	
村上 直樹	日中IT産業学術国際コンファレンス	中国・成都におけるソフトウェア産業の現状—企業対象のアンケート調査結果を中心に	2009年8月	
馬 欣欣・村上 直樹	中国経済学会学術研究会 (東日本部会)	中国のアウトソーシング企業における業務実行の阻害要因—企業調査の個票データに基づいた実証分析	2009年11月	
井尻 直彦	日本貿易学会	東アジアにおける多国籍企業の立地選択: 中国・ベトナムのケース	2009年6月	
権赫旭・深尾京司・金榮慇	日本経済学会	イノベーションと生産性上昇: 「全国イノベーション調査」と「企業活動基本調査」個票データによる実証分析	2009年6月	
金榮慇・白哲宇・権赫旭	日本経済学会	金融危機後の市場競争と生産性上昇: 韓国企業データに基づく実証分析	2009年9月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
乾友彦・池本賢悟・田中清泰	ESRI Research Note/東アジア経済におけるミクロデータを使用した企業・事業所のダイナミクスの研究のサーベイ	No. 11	2010年3月	内閣府経済社会総合研究所 (ESRI)
金榮慇・白哲宇・権赫旭	経済集志/金融危機後の市場競争と生産性上昇: 企業データに基づく実証分析	第79巻・第1号	2009年4月	日本大学経済学部
権 赫旭	紀要/資金調達と企業の生産性上昇: 日本企業データによる実証分析	第40号	2010年3月	日本大学経済学部 経済科学研究所

Kyoji Fukao, Tomohiko Inui, Keiko Ito, Young Gak Kim, and Tangjun Yuan	An International Comparison of the TFP Levels and the Productivity Convergence of Japanese, Korean, Taiwanese and Chinese Listed Firms	No. 89	2009年10月	一ツ橋大学経済研究所
Tomohiko Inui, Richard Kneller, Toshiyuki Matsuura and Danny McGowan	RIETI Discussion Paper / Globalization and Plant Exit-Evidence from Japan-	09-E-048	2009年9月	経済産業研究所 (RIETI)
Yasuyuki Todo, Weiying Zhang, Li-An Zhou	Knowledge spillovers from FDI in China: The role of educated labor in multinational enterprises	20	2009年11月	Journal of Asian Economics
D. Greenaway, A. Guariglia & Z. Yu	The More the Better? Foreign Ownership and Corporate Performance in China.	2009/5	2009年5月	Research Paper Series, China and the World Economy, Nottingham University
A. Hijzen, S. Jean & T. Mayer	The Effects at Home of Initiating Production Abroad: Evidence from Matched French Firms	No. 2009-39	2009年12月	CEPII, Working Paper
乾友彦・井尻直彦・濱田治雄・木村政司	Working Paper / 中国へのアウトソーシング	No. 21	2010年5月	日本大学経済学部 中国アジア研究センター
Naomi Miyazato	Working Paper / Immigration Policy and Sustainability of Social Security in Japan	No. 22	2010年5月	日本大学経済学部 中国アジア研究センター
Jinyoung Kim, Jungsoo Park	Working Paper / Foreign Direct Investment and Foreign-educated Labor	No. 23	2010年5月	日本大学経済学部 中国アジア研究センター

※ ホームページ等での公開の (◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
<p>乾は、内閣府経済社会総合研究所において「アジア経済のグローバル化とマイクロデータを使用した企業・事業所のダイナミクスの研究」およびの研究代表として、平成 21 年度に研究資金を獲得、平成 22 年度も引き続き研究資金が交付される。</p>			
(他の研究への発展)			
<p>乾は当該研究の成果に基づいて、内閣府経済社会総合研究所において「アジア経済のグローバル化とマイクロデータを使用した企業・事業所のダイナミクスの研究」の研究代表を勤め、アジア経済全体におけるアウトソーシングの影響について研究を実施している。</p>			
(その他)			

* 課題番号	総 08-007
	継続 総 07-008

注：課題番号を記入してください。

平成 20 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22 年 4 月 15 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 中村英夫



所属・資格 理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題 車両の総合的安全を目指したオンボード・センシングシステムの構築に関する研究				
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）				
<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 中村 英夫 理工学部・教授 研究統括 システム統合の検討 ・研究分担者（役割分担） <ul style="list-style-type: none"> 綱島 均 生産工学部・教授 軌道計測診断部の検討 高橋 聖 理工学部・専任講師 保安システム制御診断部・位置検知処理部の検討 丸茂 喜高 生産工学部・専任講師 車両運動解析部の検討 望月 寛 理工学部・助手 保安システム制御診断部・位置検知処理部の検討 水間 毅 独立行政法人 交通安全環境研究所・主幹研究員 位置検知処理部の検討 				
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
林、孫、中村ほか	NU-RAIL シンポジウム	プローブ車両技術による軌道回路の安全性・保全性向上に官知の一考察	2010 年 3 月	
望月、高橋、中村ほか	電気学会（交通電気鉄道リニアドライブ合同研究会）	軌道回路伝送における変調方式の検討	2010 年 7 月	
Hiroshi MOCHIZUKI Sei TAKAHASHI Hideo NAKAMURA	JSME	Development of CSMA-QAM Rail Transmission Device for Railway Signaling	2009 年 10 月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
小島，綱島，松本，水間	日本機械学会論文集（C 編）／車上測定データによる軌道の異常検出（第 2 報，プローブシステムの開発と検証）	75・754	2009 年 6 月	日本機械学会
Mori, Tsunashima, Kojima, Matsumoto, Mizuma	Journal of Mechanical Systems for Transportation and Logistics/Condition Monitoring of Railway Track Using In-service Vehicle	3・1	2010 年 1 月	日本機械学会
MARUMO, TSUNASHIMA, KOJIMA, HASEGAWA	Analysis of Braking Behavior of Train Drivers to Detect Unusual Driving	3・1	2010 年 1 月	日本機械学会


※ホームページ等での公開の 否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 23年 1月 24日

日本大学 総長 殿

氏 名 浅田 泰男 
所属・資格 理工学部・一般教育・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <u>総合研究</u>		注：該当する種目を○で囲んでください。																				
2 研究課題	微生物コンソーシアを利用した環境浄化に関する研究開発																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 浅田 泰男 研究分担者 (役割分担) <ul style="list-style-type: none"> (学内) 齋藤利晃 (リン蓄積細菌を用いたエネルギー回収廃液のポリッシュアップと資源回収) (学内) 吉田征史 (同上) (学内) 石見勝洋 (廃液諸成分の分析) (学内) 神野英樹 (光合成細菌の遺伝子導入) (学外) 若山樹 (バイオマスの存在量や本技術の社会的適合性) (学外) Anatoly Tsygankov (アナトリー・ツガンコフ) 光合成細菌の固定化 																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宇佐美 翔太、斉田條、小林淳平、小森谷友絵、<u>浅田泰男</u>、<u>神野英毅</u></td> <td>日本生物工学会平成22年度大会</td> <td><i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV の adh 挿入による水素生産に関する研究”</td> <td>平成22年9月</td> </tr> <tr> <td>宇佐美 翔太、小森谷友絵、<u>浅田泰男</u>、<u>神野英毅</u></td> <td>日本大学生産工学部学術講演会</td> <td>遺伝子組替え法る <i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV の水素生産能の向上に関する研究</td> <td>平成22年12月</td> </tr> </tbody> </table>			発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	宇佐美 翔太、斉田條、小林淳平、小森谷友絵、 <u>浅田泰男</u> 、 <u>神野英毅</u>	日本生物工学会平成22年度大会	<i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV の adh 挿入による水素生産に関する研究”	平成22年9月	宇佐美 翔太、小森谷友絵、 <u>浅田泰男</u> 、 <u>神野英毅</u>	日本大学生産工学部学術講演会	遺伝子組替え法る <i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV の水素生産能の向上に関する研究	平成22年12月								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																				
宇佐美 翔太、斉田條、小林淳平、小森谷友絵、 <u>浅田泰男</u> 、 <u>神野英毅</u>	日本生物工学会平成22年度大会	<i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV の adh 挿入による水素生産に関する研究”	平成22年9月																				
宇佐美 翔太、小森谷友絵、 <u>浅田泰男</u> 、 <u>神野英毅</u>	日本大学生産工学部学術講演会	遺伝子組替え法る <i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV の水素生産能の向上に関する研究	平成22年12月																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T. V. Laurinavichenea, D. N. Tekucheva, K. S. Laurinavichiusb, M. L. Ghirardic, M. Seibert, A. A. Tsygankov</td> <td>Towards the integration of dark and photo fermentative waste treatment. 1. Hydrogen photoproduction by purple bacterium <i>Rhodobacter capsulatus</i> using potential products of starch fermentation /International Journal of Hydrogen Energy</td> <td>Vol. 33</td> <td>2008年11月</td> </tr> <tr> <td><u>Y. Yoshida</u>, <u>Y. Kim</u>, <u>T. Saito</u> and <u>K. Tanaka</u></td> <td>Development of the modified activated sludge model describing nitrate inhibition of aerobic phosphate uptake/Water Science & Technology.</td> <td>No. 4 Vol. 59</td> <td>2009年2月</td> </tr> <tr> <td>若山 樹</td> <td>日本や世界のバイオマスの存在量ならびに、これからの生物的水素生産を行う場合の社会的受容性に関する調査 (調査研究報告書)</td> <td></td> <td>2009年2月</td> </tr> <tr> <td><u>Y.Asada</u>, <u>K.Ishimi</u>, <u>Y.Nagata</u>, <u>T.Wakayama</u>, <u>J.Miyake</u> and <u>H.Kohno</u>;</td> <td>Hydrogen production by co-cultures of <i>Rhozpus oryzae</i> and a photosynthetic bacterium, <i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV /Journal of Research Institute of Science and Technology, Colloge of Sciencee and Technology, Nihon-University</td> <td>No. 122</td> <td>2010年11月</td> </tr> </tbody> </table>			著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	T. V. Laurinavichenea, D. N. Tekucheva, K. S. Laurinavichiusb, M. L. Ghirardic, M. Seibert, A. A. Tsygankov	Towards the integration of dark and photo fermentative waste treatment. 1. Hydrogen photoproduction by purple bacterium <i>Rhodobacter capsulatus</i> using potential products of starch fermentation /International Journal of Hydrogen Energy	Vol. 33	2008年11月	<u>Y. Yoshida</u> , <u>Y. Kim</u> , <u>T. Saito</u> and <u>K. Tanaka</u>	Development of the modified activated sludge model describing nitrate inhibition of aerobic phosphate uptake/Water Science & Technology.	No. 4 Vol. 59	2009年2月	若山 樹	日本や世界のバイオマスの存在量ならびに、これからの生物的水素生産を行う場合の社会的受容性に関する調査 (調査研究報告書)		2009年2月	<u>Y.Asada</u> , <u>K.Ishimi</u> , <u>Y.Nagata</u> , <u>T.Wakayama</u> , <u>J.Miyake</u> and <u>H.Kohno</u> ;	Hydrogen production by co-cultures of <i>Rhozpus oryzae</i> and a photosynthetic bacterium, <i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV /Journal of Research Institute of Science and Technology, Colloge of Sciencee and Technology, Nihon-University	No. 122	2010年11月
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月																				
T. V. Laurinavichenea, D. N. Tekucheva, K. S. Laurinavichiusb, M. L. Ghirardic, M. Seibert, A. A. Tsygankov	Towards the integration of dark and photo fermentative waste treatment. 1. Hydrogen photoproduction by purple bacterium <i>Rhodobacter capsulatus</i> using potential products of starch fermentation /International Journal of Hydrogen Energy	Vol. 33	2008年11月																				
<u>Y. Yoshida</u> , <u>Y. Kim</u> , <u>T. Saito</u> and <u>K. Tanaka</u>	Development of the modified activated sludge model describing nitrate inhibition of aerobic phosphate uptake/Water Science & Technology.	No. 4 Vol. 59	2009年2月																				
若山 樹	日本や世界のバイオマスの存在量ならびに、これからの生物的水素生産を行う場合の社会的受容性に関する調査 (調査研究報告書)		2009年2月																				
<u>Y.Asada</u> , <u>K.Ishimi</u> , <u>Y.Nagata</u> , <u>T.Wakayama</u> , <u>J.Miyake</u> and <u>H.Kohno</u> ;	Hydrogen production by co-cultures of <i>Rhozpus oryzae</i> and a photosynthetic bacterium, <i>Rhodobacter sphaeroides</i> RV /Journal of Research Institute of Science and Technology, Colloge of Sciencee and Technology, Nihon-University	No. 122	2010年11月																				

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>なし</p> <p>(外部資金の獲得)</p> <p>さまざまな光合成細菌やシアノバクテリアについても、平行して水素生産のための増殖条件について検討していたところ、平成 21 年度の研究奨励寄付金獲得につながった。</p> <p>(他の研究への発展)</p> <p>(その他)</p>			

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22年 4月 9日

日 本 大 学 総 長 殿

氏名 神田 亮



所属・資格 生産工学部 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。	
2 研究課題	揺れによる低頻度大災害の心理的・物理的・経済的リスクマネジメント		
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 神田 亮 研究の総まとめ, リスクアセスメントとライフサイクルコスト ・研究分担者 (役割分担) 小野 清秋 リスク軽減のための居住空間の構築 鳥居塚 崇 揺れの心理的評価 中村 卓史 リスクアセスメントとライフサイクルコスト 吉田 典正 揺れの心理的評価 渡辺 亨 リスク軽減のための居住空間の構築 時田 学 リスクに関する評価と社会的心理 ○研究分担者 (学外) 大鳥 靖樹 リスクに関する評価と社会的心理 菊池 真弓 リスクに関する評価と社会的心理 八木 絵香 揺れの心理的評価 		
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
神田 他	日本建築学会大会学術講演梗概集	確率的アプローチによる高層免震建物の構造パラメータ推定に関する研究 －その3 地震・風直交方向・風方向外乱に対する推定例－	2008年9月
神田 他	日本建築学会大会学術講演梗概集	確率的アプローチによる中層免震建物の免震構造パラメータ推定に関する研究	2008年9月
神田, 鳥居塚 他	日本建築学会大会学術講演梗概集	新潟県中越沖地震における避難所に関する調査報告 －その1 避難者の安全・安心についての考察－	2008年9月
神田, 鳥居塚 他	日本建築学会大会学術講演梗概集	新潟県中越沖地震における避難所に関する調査報告 －その2 避難者の不満・不快についての考察－	2008年9月
渡辺, 大鳥, 神田, 中村, 小野 他	日本大学理工学部学術講演会	風外乱と地震外乱を受ける複数構造物ベンチマーク問題のための数値シミュレーションプログラムの開発	2008年11月
渡辺, 大鳥, 神田, 小野, 中村 他	日本大学理工学部学術講演会	複数構造物ベンチマーク問題のための風外力モデルの構築	2008年11月

神田, 鳥居塚 他	日本人間工学会関東支部	地震災害時の避難所における安全・安心に関する考察 －新潟県中越沖地震のヒアリング及びアンケート調査より－	2008年11月
神田 他	風工学シンポジウム	確率的アプローチによる高層免震建築物の構造パラメータ推定に関する研究 －地震応答および風直交方向応答に対する推定－	2008年12月
渡辺, 大鳥, 神田, 小野, 中村 他	日本機械学会機械力学・計測制御部門講演会	複数構造物ベンチマーク問題のための風外力モデルの構築	2009年8月
Watanabe, Ohtori, Kanda, Ono, Nakamura, and Seto etc	Symposium On Dynamics and Control	DEVELOPMENT OF A BENCHMARK PROBLEM FOR MULTIPLE BUILDINGS SUBJECTED TO WIND AND EARTHQUAKE EXCITATION	2009年8月
渡辺, 大鳥, 神田, 小野, 中村 他	日本大学理工学部学術講演会	風外乱と地震外乱を受ける複数構造物のベンチマーク問題の構築	2009年11月
神田, 鳥居塚, 菊池, 時田, 八木, 吉田 他	日本大学生産工学部学術講演会	地震災害時に避難所となる建物の住環境と耐震性能の関連性に関する研究	2009年12月

5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
神田 他	日本大学生産工学部研究報告 A/確率的アプローチによる高層免震建築物の構造パラメータ推定に関する研究－地震外乱および風直交方向外乱に対する応答評価－	41巻2号	2008年12月	日本大学生産工学部

※ホームページ等での公開の 可・否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	総 08-014
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成22年4月28日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 池田 稔



所属・資格 医学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input checked="" type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	味覚障害の新しい診断方法 (ScReP) の開発とその応用			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 池田 稔 ・研究分担者 (役割分担) 國分眞一郎 (患者選定、遺伝子発現判定) 高尾恭一 (組織調整、RT-PCR) 小池文彦 (味覚検査、組織採取、結果判定) 小池一喜 (患者選定、心理ストレス判定、結果判定) 熊谷日登美 (健常ボランティアの選定および遺伝子発現の検討) 高尾哲也 (昭和女子大における検討全般)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
小池 文彦, 高尾 恭一, 池田 稔, 高尾 哲也, 他7名	第63回日本栄養・食糧学会大会	食物摂取と味覚受容体発現との関連	2009年5月	
小池 一喜, 他6名	第1回日本心身医学5学会合同集会	心理ストレス強度と唾液分泌の関係について	2009年6月	
高尾 恭一, 國分 眞一郎, 池田 稔, 他2名	第20回日本微量元素学会	亜鉛欠乏ラットの有郭乳頭における味覚受容体遺伝子の発現	2009年7月	
小池 文彦, 高尾 恭一, 熊谷 日登美, 高尾 哲也, 他5名	第43回日本味と匂学会	食物摂取状況と味覚受容体発現の関連性	2009年9月	
高尾 哲也, 熊谷 日登美, 小池 文彦, 高尾 恭一, 他5名	第43回日本味と匂学会	hTAS2Rs 発現性に係わる食品摂取因子の解析	2009年9月	
高尾 恭一, 國分 眞一郎	第20回日本病態生理学会大会	ヒトの葉状乳頭における味覚受容体発現を利用した新しい味覚検査法	2010年1月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
池田 稔, 他3名	耳鼻咽喉科・頭頸部外科/シリーズ知っておきたい生理・病態の基礎 2. 味覚の生理とその障害の病態	第82巻・第2号	2010年2月	医学書院

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	総 08-015
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 20 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22 年 3 月 31 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 三俣 昌子



所属・資格 医学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	血管病発症・阻止機構に関わる血流下内皮細胞発現因子の網羅的解析とその相互作用																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 √ 三俣 昌子 ・研究分担者 (役割分担) √ 江角 眞理子 (網羅的遺伝子・蛋白解析) √ 楠美 嘉晃 (遺伝子・蛋白の局在、内皮増殖・単球接着実験) √ 安孫子 宜光 (網羅的遺伝子・蛋白解析と機能的ネットワーク解析) √ 山本 樹生 (妊娠高血圧症候群の内皮機能異常と医療への応用) √ 松本 太郎 (再生医療への応用) √ 福田 昇 (再生医療への応用) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 10%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安孫子 宜光, 江角 眞理子, 楠美 嘉晃, 松本 太郎, 福田 昇, 三俣 昌子, 他1名</td> <td>第 13 回血管病理研究会</td> <td>乱流と層流負荷下における内皮細胞の増殖と単球接着の関連についての検討</td> <td>2008 年 10 月</td> </tr> <tr> <td>√Yoshimitsu Abiko, √Yoshiaki Kusumi, √Noboru Fukuda, √Taro Matsumoto, √Mariko Esumi, √Tatsuo Yamamoto, Masako √Mitsumata, et al.</td> <td>The 14th Meeting on Thrombosis & Rheology</td> <td>Correlation of endothelial proliferation with monocyte adhesion under laminar or disturbed shear stress</td> <td>2009 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>Y Abiko, N Fukuda, T Matsumoto, M Mitsumata, et al.</td> <td>XV International Symposium on Atherosclerosis</td> <td>CORRELATION OF ENDOTHELIAL PROLIFERATION WITH MONOCYTE ADHESION UNDER LAMINAR OR DISTURBED SHEAR STRESS</td> <td>2009 年 6 月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	安孫子 宜光, 江角 眞理子, 楠美 嘉晃, 松本 太郎, 福田 昇, 三俣 昌子, 他1名	第 13 回血管病理研究会	乱流と層流負荷下における内皮細胞の増殖と単球接着の関連についての検討	2008 年 10 月	√Yoshimitsu Abiko, √Yoshiaki Kusumi, √Noboru Fukuda, √Taro Matsumoto, √Mariko Esumi, √Tatsuo Yamamoto, Masako √Mitsumata, et al.	The 14th Meeting on Thrombosis & Rheology	Correlation of endothelial proliferation with monocyte adhesion under laminar or disturbed shear stress	2009 年 3 月	Y Abiko, N Fukuda, T Matsumoto, M Mitsumata, et al.	XV International Symposium on Atherosclerosis	CORRELATION OF ENDOTHELIAL PROLIFERATION WITH MONOCYTE ADHESION UNDER LAMINAR OR DISTURBED SHEAR STRESS	2009 年 6 月														
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
安孫子 宜光, 江角 眞理子, 楠美 嘉晃, 松本 太郎, 福田 昇, 三俣 昌子, 他1名	第 13 回血管病理研究会	乱流と層流負荷下における内皮細胞の増殖と単球接着の関連についての検討	2008 年 10 月																															
√Yoshimitsu Abiko, √Yoshiaki Kusumi, √Noboru Fukuda, √Taro Matsumoto, √Mariko Esumi, √Tatsuo Yamamoto, Masako √Mitsumata, et al.	The 14th Meeting on Thrombosis & Rheology	Correlation of endothelial proliferation with monocyte adhesion under laminar or disturbed shear stress	2009 年 3 月																															
Y Abiko, N Fukuda, T Matsumoto, M Mitsumata, et al.	XV International Symposium on Atherosclerosis	CORRELATION OF ENDOTHELIAL PROLIFERATION WITH MONOCYTE ADHESION UNDER LAMINAR OR DISTURBED SHEAR STRESS	2009 年 6 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 30%;">著書名・雑誌名/論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 15%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	総08-022 総07-022
--------	--------------------

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22 年 5 月 31 日

日本大学 総長 殿

氏 名 岡田明子



所属・資格 歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注:該当する種目を○で囲んでください。																				
2 研究課題	片頭痛に随伴する光過敏発症における三叉神経脊髄路核ニューロンの関与																							
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 岡田明子 (旧姓;小川) 研究分担者 (役割分担) <ul style="list-style-type: none"> 今村佳樹 組織学的検討 (免疫組織染色) 岩田幸一 モデルの作製、電気生理学的検討 坪井美行 組織学的検討 (免疫組織染色) 近藤真啓 組織学的検討 (免疫組織染色) 草間貞 薬物注入後の行動解析 																							
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小川明子、今村佳樹、岩田幸一</td> <td>第30回日本疼痛学会</td> <td>片頭痛モデルラットの光刺激により三叉神経脊髄路核に発現する pERK 陽性細胞の分布様式</td> <td>2008. 7. 19-20</td> </tr> <tr> <td>小川明子、今村佳樹、岩田幸一</td> <td>第60回日本大学歯学会 総会・学術大会</td> <td>片頭痛モデルラットの光刺激により三叉神経脊髄路核に発現する phosphorylated extracellular signal-regulated kinase (pERK)陽性細胞の分布様式</td> <td>2008. 5. 17</td> </tr> <tr> <td>Akiko Ogawa, Koichi Iwata, Yoshiki Imamura</td> <td>12th World congress on pain</td> <td>Phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase (pERK) in upper cervical spinal cord neurons following photic stimulation in rats' model with migraine</td> <td>2008. 8. 17-22</td> </tr> <tr> <td>岡田明子、加茂博士、今村佳樹</td> <td>第23回日本口腔診断学会</td> <td>片頭痛に随伴する光過敏症発症に対する上部頸髄ニューロンの関与</td> <td>2010. 5. 29-30</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	小川明子、今村佳樹、岩田幸一	第30回日本疼痛学会	片頭痛モデルラットの光刺激により三叉神経脊髄路核に発現する pERK 陽性細胞の分布様式	2008. 7. 19-20	小川明子、今村佳樹、岩田幸一	第60回日本大学歯学会 総会・学術大会	片頭痛モデルラットの光刺激により三叉神経脊髄路核に発現する phosphorylated extracellular signal-regulated kinase (pERK)陽性細胞の分布様式	2008. 5. 17	Akiko Ogawa, Koichi Iwata, Yoshiki Imamura	12 th World congress on pain	Phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase (pERK) in upper cervical spinal cord neurons following photic stimulation in rats' model with migraine	2008. 8. 17-22	岡田明子、加茂博士、今村佳樹	第23回日本口腔診断学会	片頭痛に随伴する光過敏症発症に対する上部頸髄ニューロンの関与	2010. 5. 29-30
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																					
小川明子、今村佳樹、岩田幸一	第30回日本疼痛学会	片頭痛モデルラットの光刺激により三叉神経脊髄路核に発現する pERK 陽性細胞の分布様式	2008. 7. 19-20																					
小川明子、今村佳樹、岩田幸一	第60回日本大学歯学会 総会・学術大会	片頭痛モデルラットの光刺激により三叉神経脊髄路核に発現する phosphorylated extracellular signal-regulated kinase (pERK)陽性細胞の分布様式	2008. 5. 17																					
Akiko Ogawa, Koichi Iwata, Yoshiki Imamura	12 th World congress on pain	Phosphorylation of extracellular signal-regulated kinase (pERK) in upper cervical spinal cord neurons following photic stimulation in rats' model with migraine	2008. 8. 17-22																					
岡田明子、加茂博士、今村佳樹	第23回日本口腔診断学会	片頭痛に随伴する光過敏症発症に対する上部頸髄ニューロンの関与	2010. 5. 29-30																					
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Okada-Ogawa A, Suzuki I, Sessle BJ, Chiang CY, Salter MW, Dostrovsky JO, Tsuboi Y, Kondo M, Kitagawa J, Kobayashi A, Noma N, Imamura Y, Iwata K.</td> <td>The Journal of Neuroscience / Astroglia in Medullary Dorsal Horn (Trigeminal Spinal Subnucleus Caudalis) Are Involved in Trigeminal Neuropathic Pain Mechanisms.</td> <td>29 (36) 11161 - 11171</td> <td>2009 年 9 月</td> <td>The Society for Neuroscience</td> </tr> <tr> <td>Tadashi Kusama et al.</td> <td>The Journal of Comparative Neurology / Hind-Limb Paraparesis in a Rat Model for Neurolathyrism Associated With Apoptosis and an Impaired Vascular Endothelial Growth Factor System in the Spinal Cord</td> <td>518 / 6 928-942</td> <td>2010 年 3 月</td> <td>Wiley-Liss</td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Okada-Ogawa A, Suzuki I, Sessle BJ, Chiang CY, Salter MW, Dostrovsky JO, Tsuboi Y, Kondo M, Kitagawa J, Kobayashi A, Noma N, Imamura Y, Iwata K.	The Journal of Neuroscience / Astroglia in Medullary Dorsal Horn (Trigeminal Spinal Subnucleus Caudalis) Are Involved in Trigeminal Neuropathic Pain Mechanisms.	29 (36) 11161 - 11171	2009 年 9 月	The Society for Neuroscience	Tadashi Kusama et al.	The Journal of Comparative Neurology / Hind-Limb Paraparesis in a Rat Model for Neurolathyrism Associated With Apoptosis and an Impaired Vascular Endothelial Growth Factor System in the Spinal Cord	518 / 6 928-942	2010 年 3 月	Wiley-Liss					
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																				
Okada-Ogawa A, Suzuki I, Sessle BJ, Chiang CY, Salter MW, Dostrovsky JO, Tsuboi Y, Kondo M, Kitagawa J, Kobayashi A, Noma N, Imamura Y, Iwata K.	The Journal of Neuroscience / Astroglia in Medullary Dorsal Horn (Trigeminal Spinal Subnucleus Caudalis) Are Involved in Trigeminal Neuropathic Pain Mechanisms.	29 (36) 11161 - 11171	2009 年 9 月	The Society for Neuroscience																				
Tadashi Kusama et al.	The Journal of Comparative Neurology / Hind-Limb Paraparesis in a Rat Model for Neurolathyrism Associated With Apoptosis and an Impaired Vascular Endothelial Growth Factor System in the Spinal Cord	518 / 6 928-942	2010 年 3 月	Wiley-Liss																				

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			


* 課題番号	総08-029 総07-026
--------	--------------------

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22年 11月 1日

日本大学 総長 殿

氏 名 _____ 森 司 

所属・資格 _____ 生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / <u>総合研究</u>	注：該当する種目を○で囲んでください。																																				
2 研究課題	捕食者誘導による表現型の可塑性と脳形成、そして遺伝子の転写と翻訳制御に関する研究																																					
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 森 司 研究分担者 (役割分担) 司馬 肇 (タンパク質の分離分取) 荻原 淳 (たんぱく質のMSによる同定) 朝比奈 潔 (組織切片の作成と組織化学) 鈴木 美和 (ストレス指標ホルモンの測定) 早川 智 (ストレス関連ホルモンなどの計測) 																																					
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森司, 荻原淳, 鈴木美和, 司馬肇, 朝比奈潔, 早川 智, 木谷洋一郎, 杉山 学</td> <td>日本動物学会</td> <td>エゾアカガエルの表現型の可塑性に関する新規遺伝子の発現解析</td> <td>H22年9月25日</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	森司, 荻原淳, 鈴木美和, 司馬肇, 朝比奈潔, 早川 智, 木谷洋一郎, 杉山 学	日本動物学会	エゾアカガエルの表現型の可塑性に関する新規遺伝子の発現解析	H22年9月25日																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																			
森司, 荻原淳, 鈴木美和, 司馬肇, 朝比奈潔, 早川 智, 木谷洋一郎, 杉山 学	日本動物学会	エゾアカガエルの表現型の可塑性に関する新規遺伝子の発現解析	H22年9月25日																																			
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Tsukasa Mori, Hiroko Kawachi, Chiharu Imai, Manabu Sugiyama, Youichi Kurata, Osamu Kishida, Kinya Nishimura.</td> <td>Identification of a Novel Uromodulin-Like Gene Related to Predator-Induced Bulgy Morph in Anuran Tadpoles by Functional Microarray Analysis.</td> <td>4,1-10</td> <td>2009, 6</td> <td>PLoS ONE</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Tsukasa Mori, Hiroko Kawachi, Chiharu Imai, Manabu Sugiyama, Youichi Kurata, Osamu Kishida, Kinya Nishimura.	Identification of a Novel Uromodulin-Like Gene Related to Predator-Induced Bulgy Morph in Anuran Tadpoles by Functional Microarray Analysis.	4,1-10	2009, 6	PLoS ONE																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																		
Tsukasa Mori, Hiroko Kawachi, Chiharu Imai, Manabu Sugiyama, Youichi Kurata, Osamu Kishida, Kinya Nishimura.	Identification of a Novel Uromodulin-Like Gene Related to Predator-Induced Bulgy Morph in Anuran Tadpoles by Functional Microarray Analysis.	4,1-10	2009, 6	PLoS ONE																																		

※ホームページ等での公開の (○) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
1. この研究を通して捕食ストレスと脳の形態に関する新しい研究がスタートした。			
2. 捕食ストレスにより生じるオタマジャクシの膨満化を組織化学的に調べ、現在共同研究者と論文を作成中である。			
(その他)			

* 課題番号	総 08-030 (継続 総 07-028)
--------	---------------------------

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22 年 4 月 23 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 _____ 月瀬 東
 所属・資格 _____ 生物資源科学部 ・ 教授



下記のとおり提出いたします。

1	種 目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。		
2	研究課題 <p style="text-align: center;">超ミニブタの実験用モデル動物としての応用法に関する研究</p>				
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・研究代表者 ○月瀬 東 生物資源科学部・教授 (総括; 臨床医学的観察, 形態学的ならびに形態化学的研究) ・研究分担者 (役割分担) 酒井 健夫 生物資源科学部・教授 (病態生理学的解析) 金山 喜一 生物資源科学部・教授 (病態生理学的解析) 大場 茂夫 生物資源科学部・専任講師 (糖尿病モデルの作出, 臨床医学的観察) 北川 勝人 生物資源科学部・専任講師 (糖尿病モデルの作出, 臨床医学的観察) 安井 禎 生物資源科学部・助教 (臨床医学的観察, 形態学的ならびに形態化学的研究) 木場 秀夫 松戸歯学部・専任講師 (臨床医学的観察, 形態学的ならびに形態化学的研究) 諸星 康雄 北里大学 医学部・専任講師 (糖尿病モデルの作出, 形態学的ならびに形態化学的研究) 桑原 康 農事組合法人 富士農場サービス・代表理事 (糖尿病モデルの作出, 臨床医学的観察)				
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	○月瀬 東・安井 禎・ 北川 勝人・大場 茂夫・ 金山 喜一・酒井 健夫・ 木場 秀夫・諸星 康雄・ 桑原 康	第 149 回日本獣医学会 学術集会	超ミニブタの形態学的特性と実験用モデル動物としての応用法に関する研究	平成 22 年 3 月	
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成20年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22年 4月 27日

日本大学 総長 殿

氏 名 榎葉 繁紀



所属・資格 薬学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																									
2 研究課題	体内時計の脂肪細胞特異的な破綻によるメタボリックシンドローム発症とそのメカニズム																										
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表者 榎葉 繁紀 ・ 研究分担者 (役割分担) 手塚 雅勝 (KOマウスの生化学的解析) 石毛久美子 (KOマウスの行動薬理学的解析) 小宮山一雄 (KOマウスの病理学的解析) 浅野 正岳 (KOマウスの病理学的解析) 岩瀬 孝志 (KOマウスの病理学的解析) 上野 高浩 (耐糖能実験及びその解析) 福田 昇 (耐糖能実験及びその解析) 																										
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 10%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>榎葉繁紀, 石毛久美子 他4名</td> <td>日本薬学会第130年会</td> <td>アルツハイマー病モデルマウスにおける時計遺伝子 Bmal1 の発現変化</td> <td>2010年3月</td> </tr> <tr> <td>榎葉繁紀, 石毛久美子 他2名</td> <td>日本薬学会第130年会</td> <td>肝臓における体内時計は全身のエネルギー代謝を制御する</td> <td>2010年3月</td> </tr> <tr> <td>榎葉繁紀, 石毛久美子 他2名</td> <td>日本薬学会第130年会</td> <td>時計遺伝子 Brain and Muscle Arnt like protein 1 (BMAL1)による細胞内酸化還元状態の制御を介したエネルギー代謝調節</td> <td>2010年3月</td> </tr> <tr> <td>Takashi IWASE, Kazuo KOMIYAMA</td> <td>14TH ICMI 2009</td> <td>Regulation of Polymeric Immunoglobulin Receptor Expression by Secretory Leukocyte Protease Inhibitor in Epithelial Cells</td> <td>2009年7月</td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	榎葉繁紀, 石毛久美子 他4名	日本薬学会第130年会	アルツハイマー病モデルマウスにおける時計遺伝子 Bmal1 の発現変化	2010年3月	榎葉繁紀, 石毛久美子 他2名	日本薬学会第130年会	肝臓における体内時計は全身のエネルギー代謝を制御する	2010年3月	榎葉繁紀, 石毛久美子 他2名	日本薬学会第130年会	時計遺伝子 Brain and Muscle Arnt like protein 1 (BMAL1)による細胞内酸化還元状態の制御を介したエネルギー代謝調節	2010年3月	Takashi IWASE, Kazuo KOMIYAMA	14TH ICMI 2009	Regulation of Polymeric Immunoglobulin Receptor Expression by Secretory Leukocyte Protease Inhibitor in Epithelial Cells	2009年7月					
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																								
榎葉繁紀, 石毛久美子 他4名	日本薬学会第130年会	アルツハイマー病モデルマウスにおける時計遺伝子 Bmal1 の発現変化	2010年3月																								
榎葉繁紀, 石毛久美子 他2名	日本薬学会第130年会	肝臓における体内時計は全身のエネルギー代謝を制御する	2010年3月																								
榎葉繁紀, 石毛久美子 他2名	日本薬学会第130年会	時計遺伝子 Brain and Muscle Arnt like protein 1 (BMAL1)による細胞内酸化還元状態の制御を介したエネルギー代謝調節	2010年3月																								
Takashi IWASE, Kazuo KOMIYAMA	14TH ICMI 2009	Regulation of Polymeric Immunoglobulin Receptor Expression by Secretory Leukocyte Protease Inhibitor in Epithelial Cells	2009年7月																								
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 40%;">著書名・雑誌名/論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 15%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上野高浩, 福田昇 他18名</td> <td>Association of SLC6A9 Gene Variants with Human Essential Hypertension J Atheroscler Thromb</td> <td>16</td> <td>2009.6</td> <td>日本動脈硬化学会</td> </tr> <tr> <td>榎葉繁紀, 手塚雅勝 他2名</td> <td>Aryl Hydrocarbon Receptor Function as a Potent Coactivator of E2F1-Dependent Transcription Activity Biol. Pharm. Bull</td> <td>33</td> <td>2010.3</td> <td>日本薬学会</td> </tr> <tr> <td>小宮山一雄 他7名</td> <td>Detection of fascin and CCR-7 positive mature dendritic cells in oral lichen planus J Oral Pathol Med</td> <td>156</td> <td>2009.4</td> <td>Wiley</td> </tr> <tr> <td>M. Asano, et al.</td> <td>PolyI:C-induced expression of intercellular adhesion molecule-1 in intestinal epithelial cells. The Journal of Translational Immunology</td> <td>156</td> <td>2009.</td> <td>British Society for Immunology, Clinical and Experimental Immunology</td> </tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	上野高浩, 福田昇 他18名	Association of SLC6A9 Gene Variants with Human Essential Hypertension J Atheroscler Thromb	16	2009.6	日本動脈硬化学会	榎葉繁紀, 手塚雅勝 他2名	Aryl Hydrocarbon Receptor Function as a Potent Coactivator of E2F1-Dependent Transcription Activity Biol. Pharm. Bull	33	2010.3	日本薬学会	小宮山一雄 他7名	Detection of fascin and CCR-7 positive mature dendritic cells in oral lichen planus J Oral Pathol Med	156	2009.4	Wiley	M. Asano, et al.	PolyI:C-induced expression of intercellular adhesion molecule-1 in intestinal epithelial cells. The Journal of Translational Immunology	156	2009.	British Society for Immunology, Clinical and Experimental Immunology
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																							
上野高浩, 福田昇 他18名	Association of SLC6A9 Gene Variants with Human Essential Hypertension J Atheroscler Thromb	16	2009.6	日本動脈硬化学会																							
榎葉繁紀, 手塚雅勝 他2名	Aryl Hydrocarbon Receptor Function as a Potent Coactivator of E2F1-Dependent Transcription Activity Biol. Pharm. Bull	33	2010.3	日本薬学会																							
小宮山一雄 他7名	Detection of fascin and CCR-7 positive mature dendritic cells in oral lichen planus J Oral Pathol Med	156	2009.4	Wiley																							
M. Asano, et al.	PolyI:C-induced expression of intercellular adhesion molecule-1 in intestinal epithelial cells. The Journal of Translational Immunology	156	2009.	British Society for Immunology, Clinical and Experimental Immunology																							

※ ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>なし</p> <p>(外部資金の獲得)</p> <p>榛葉繁紀 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(C)</p> <p>(他の研究への発展)</p> <p>(その他)</p> <p>テレビ番組における研究紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビ朝日「たけしの本当は怖い家庭の医学」2009.11.17 ・日本テレビ「スーパーサプライズ」2010.1.22 ・BS-TBS「教えて・からだの味方」2010.3.27 <p>雑誌における研究紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日経ヘルス 6月号 (2009) ・日経ヘルス 8月号 (2009) ・HARUMO 10月号 (2009) 			